

< 運営推進会議における評価_様式例 > ※公表用

【事業所概要】

法人名	有限会社 癒 森 会	事業所名	看護小規模多機能型居宅介護事業所 やしろの郷
所在地	(〒918-8055) 福井市若杉町25-18-1		

【事業所の特徴、特に力を入れている点】

在宅生活を望む利用者と家族を支えるために、それを可能にするサービスを介護度にとらわれずあらゆる側面から検討し、家族・医療・地域と連携し、共に歩んで行くことに努めています。また包括的なサービスを生かし、その時々ニーズに柔軟に対応できる事が強みと自負しています。

利用者の個性に寄り添って、生活全般に目を行き届けられるよう常に多職種で対応し、都度にスタッフと家族の情報交換を怠らないように努め、チームで細かくケアの振り返りを行うことで、よりよい在宅生活が実現できるよう日々努めています。

【自己評価の実施概要】

事業所自己評価 実施日	西暦 2024 年 2 月 1 日	従業者等自己評価 実施人数	(9) 人	※管理者を含む
----------------	-------------------	------------------	---------	---------

ww

■ 前回の改善計画の進捗評価

項目	前回の改善計画	実施した具体的な取組	進捗評価	
			自己評価	運営推進会議における意見等
I. 事業運営の評価 (評価項目 1~10)	<ul style="list-style-type: none"> 災害時の備蓄について、倉庫等の準備が必要。 災害時等に緊急連絡ツールを導入した。 	自宅でも研修受講ができるように、法人で研修受講の権利を購入した。	・自宅や自分のスマホ等のデバイスでも受講可能なオンライン研修の体制を整え、計画的に研修を受講できるように	・LINEを活用しての連絡体制構築は速やかな情報共有を図る観点から有効な手段と思われる。

			<ul style="list-style-type: none"> ・研修受講等の費用貸付制度については、顧問社労士と検討を重ねている。 ・備蓄品について、担当を決め、ストック等を確認の上発注している。BCP作成は作成段階である。 	<p>したことは評価したい。事業所内のオンライン受講の環境は場所の確保が困難である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資格取得をはじめ、研修を受講できる体制作りは評価したい。費用貸付制度は補助金も検討しつつ、来年度には生徒構築を目指したい。 ・職員間の連絡にLINEのオープンチャットを運用した。コロナ時の連絡体制等がうまく活用できた。 	
II. サービス提供等の評価	1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～27)	・終末期ケアの研修参加を推進する。	・Eラーニングでの研修機会提供にとどまった。	・終末期の対象者がいなく、Eラーニングの研修にとどまった。	・各種研修への参加が望ましい。
	2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 28～31)	・看護職員を増やす	・看護職員を増員	・看護職員数は適正となったが、介護職員が退職し少なくなった。地域の訪問看護ステーションからリハビリの助言を頂けるようなシステムを構築した	看護職員の確保が難しい中、ステーションとの連携をとれたことはとても良いと思う。
	3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画 (評価項目)	・看護職員の増員を図る	認知症独居の方に後見人の手続きを行った。	・認知症独居の方が可能な限り地域で生活できるように後見人制度を利用した。夜間徘徊	介護度が重くなり、認知症が増悪する事で後見人の活用は本人の利益を守るために良い

	目 32～41)			徊が多い利用者について命のリスクがあり、速やかに短期入所へ移行など行った。	と思う。
Ⅲ. 結果評価 (評価項目 42～44)	・早期発見早期対応をすることができる	利用者の状態に合わせて訪問頻度を増やす等を行った。また、一人暮らしが限界な方に対して後見人へ繋げたりした。	・一人暮らしの利用者の安全を確保するために様々な制度を利用し対応できた点は評価したい。今年度は認知症独居の方の利用者が増えており、その対応に追われていた。都度適切な対応ができたと評価したい。	独居者を朝得ることが多いと思われるが、訪問頻度を増やす等でしっかりと対応できて切る。	

※「進捗評価（運営推進会議における意見等）」には、運営推進会議の場で得られた主なご意見等をメモします。その他の欄は、事業所が記載します

■ 「今回の改善計画（案）」および「運営推進会議における評価」

項目		改善計画（案）	運営推進会議における意見等
Ⅰ. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)		・事業所の理念やサービス内容について職員に再度周知徹底を行いたい。	フロア等に掲示する等工夫頂きたい。
Ⅱ. サービス提供等の評価	1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～27)	緊急時の対応はできていた。認知症独居の方に対して介護サービス以外の社会的資源を活用したい。 医療的な専門	介護サービス以外の社会的資源をうまく活用できるとよい。
	2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 28～31)	・医療機関はじめ、包括支援センター、他施設と利用者さんの連携を図る。	必要時、必要などことと連携できる体制を図れるとよい。

	<p>3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画(評価項目 32~41)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・医療ニーズの方、認知症の方が地域で住み続けるように医療機関をはじめ、社会資源を生かして支援をしていく。 ・急な変更も臨機応変に対応できるようにする。 ・地域社会のイベント等に参加しなじみの顔を築くようにする 	<p>コロナ5類となり、地域のイベントも増えていくと思う。少しずつでも参加できるとよい。</p>
<p>Ⅲ. 結果評価 (評価項目 42~44)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症の症状悪化により介護度改善が難しい利用者が見られるなど、ますます医療機関との連携が必要となり、訪問看護、訪問介護で得られた利用者情報を的確に医師に伝え対応について指示を受けるなど、都度、在宅生活を継続するために必要なサービスの見直しを行い、適切なサービスを提供する。 	<p>認知症が在宅生活を送るうえでの一つのキーワードになっている。今まで以上に医療機関との密な連携が必要とされている。</p>	

■ 評価表 [事業所自己評価]

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
I 事業運営の評価 [適切な事業運営]							
(1) 理念等の明確化							
① 看護小規模多機能型居宅介護の特徴を踏まえた理念等の明確化とその実践							
1	○ サービスに求められる「①医療ニーズの高い利用者の在宅生活の継続支援」、「②在宅での看取りの支援」、「③生活機能の維持回復」、「④家族の負担軽減」、「⑤地域包括ケアへの貢献」を含む、独自の理念等を掲げている		1	5		できていることへの評価もあってよい	<ul style="list-style-type: none"> ✓ ①～⑤の全てを含む理念等がある場合は「よくできている」 ✓ ①～⑤の一部を含む理念等が掲げられている場合は、「おおそできている」もしくは「あまりできていない」 ✓ 独自の理念等が明確化されていない場合は「全くできていない」
2	○ サービスの特徴および事業所の理念等について、職員がその内容を理解し、実践している		2	4		理念について考える又は話し合う時間があってもよい	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「サービスの特徴および理念等を踏まえた実践」の充足度を評価します ✓ 独自の理念等が明確化されていない場合は「全くできていない」
(2) 人材の育成							
① 専門技術の向上のための取組							

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
3	○ 職員との話し合いなどを通じて、各職員の中長期的な育成計画などを作成している			4	2	職場への定着が課題	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「育成計画の作成」の状況について、充足度を評価します ✓ すべての職員について育成計画などを作成している場合は「よくできている」 ✓ 育成計画などを作成していない場合は「全くできていない」 ✓
4	○ 法人内外の研修を受ける機会を育成計画等に基づいて確保するなど、職員の専門技術の向上のための日常業務以外での機会を確保している		2	3		習熟を振りかえれるとよい。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「専門技術の向上のための日常業務以外での機会の確保」について、充足度を評価します
② 介護職・看護職間の相互理解を深めるための機会の確保							
5	○ 介護職・看護職・介護支援専門員の間で、職員が相互に情報を共有する機会が、確保されている		1	2	3	ノート PC 当活用できるものは活用できるとよい。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「情報を共有する機会」の充足度を評価します ✓ 例えば「利用者等の具体的なケースについて話し合うための、定期的なカンファレンスの開催」などが考えられます

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
(3) 組織体制の構築							
① 運営推進会議で得られた意見等の反映							
6	○ 運営推進会議で得られた要望、助言等を、サービスの提供等に反映させている		1	2	3	実際に会議を得て現場がどうかかわったか評価できるとよい。	✓ 「得られた要望・助言等のサービスへの反映」の視点から、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] 当会議の議事録を配布している。					
② 職員が安心して働くことができる就業環境の整備							
7	○ 職員が、安心して働くことができる就業環境の整備に努めている		2	3	1	職場定着の為に積極的に環境整備が図れるとよい。	✓ 「職員が、安心して働くことのできる就業環境」の充足度を評価します ✓ 例えば、「職員の能力向上の支援」、「精神的な負担の軽減のための支援」、「労働時間への配慮」などが考えられます ✓
		[具体的な状況・取組内容] 就業規則は令和6年2月に更新している。					
(4) 情報提供・共有のための基盤整備							
① 利用者等の状況に係る情報の随時更新・共有のための環境整備							
8	○ 利用者等の情報について、随時更新を行うとともに、必要		3	3		PC 以外でも借ることができる とさらに情報共有が捗れる。	✓ 「情報の随時の更新」と「職員間で迅速に共有するための工夫」の

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
	に応じて職員間で迅速に共有できるよう工夫されている	[具体的な状況・取組内容] 申し送り、共有ソフト「ほのぼの」等を使用し、共有している。					2つの視点から、充足度を評価します
(5) 安全管理の徹底							
① 各種の事故に対する安全管理							
9	○ サービス提供に係る利用者等および職員の安全確保のため、事業所においてその具体的な対策が講じられている		2	2	1	膝、腰痛への配慮はよい。	✓ 「各種の事故に対する予防・対策」の充足度を評価します 対策が求められる事項としては、例えば「医療・ケア事故の予防・対策」、「交通安全」、「夜間訪問時の防犯対策」、「個人情報保護」などが考えられます
② 災害等の緊急時の体制の構築							
10	○ 災害などの緊急時においても、サービス提供が継続できるよう、職員、利用者、関係機関の間で、具体的な対応方針が共有されている		2	3	1	訓練でBCPの理解の促進が図れるとよい。	✓ 「緊急時におけるサービス提供のための備え」について、充足度を評価します ✓ 例えば、「安否確認方法の明確化」、「連絡先リストの作成」、「医療材料などの確保」、「災害時ケアのマニュアル化」などが考えられます

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
Ⅱ サービス提供等の評価							
1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供							
(1) 利用者等の状況把握及びアセスメントに基づく計画の作成							
① 利用者等の 24 時間の暮らし全体に着目した、介護・看護両面からの一体的なアセスメントの実施							
11	○ 在宅時の利用者の生活状況や家族等介護者の状況等を含む、利用者等の 24 時間の暮らし全体に着目したアセスメントが行われている			3	2	家族の不安が軽減されていると思う。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「家族等も含めた 24 時間の暮らし全体に着目したアセスメント」の充足度を評価します ✓ ケアが包括的に提供される看護小規模多機能型居宅介護においては、家族等も含めた 24 時間の暮らし全体に着目したアセスメントが必要となります ✓
12	○ 介護職と看護職がそれぞれの視点から実施したアセスメントの結果が、両職種の間で共有されている		1	1	2	共有を紙や PC 当で視覚化できるとよい、	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「介護職と看護職間でのアセスメント結果の共有」について、充足度を評価します ✓ 介護・看護の両面から行われたアセスメントの結果は、その後のつき合わせなどを通じて、両職種で

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
							共有されることが望ましいといえます ✓
② 利用者等の「尊厳の保持と自己実現の達成」を重視した計画の作成							
13	○ 家族を含む利用者等の考えを把握するとともに、その目標の達成に向けた計画が作成されている		1	2		普段からの何気ない関りからも本音が聞き取れると思う。	✓ 「家族等の考えを含めた計画の作成」について、充足度を評価し利用者のみでなく、家族等の考えを適切に把握するとともに、その考えを含めた計画を作成することは重要であるといえます ✓
		[具体的な状況・取組内容] 家族へのヒヤリング、本人の思いに則ったケアプランの作成に心がけている。					
14	○ 利用者の有する能力を最大限に活かした、「心身の機能の維持回復」「生活機能の維持又は向上」を目指すことを重視した計画が作成されている			2	1	できることの見極め、どうしたらでいるかの判断が重要。	✓ 「利用者の有する能力を活かした、心身機能の維持回復を重視した計画の作成」について、充足度を評価します ✓ 「利用者が尊厳を持って、その有する能力に応じ地域において自立した日常生活を営む」ために、必要な視点であるといえます ✓
		[具体的な状況・取組内容] できることは自分でできるようにケアの統一を図っている。					
③ 利用者の今後の状況変化の予測と、リスク管理を踏まえた計画の作成							
15	○ 利用者の今後の状況変化の			2	1	細かい調整がなされていて	✓ 「状況変化の予測」と「リスク管

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
	予測と、リスク管理を踏まえた計画が作成されている					よい	理」の2つの視点から、充足度を評価します ✓ 介護・看護が一体的に提供される看護小規模多機能型居宅介護においては、特に看護職による予後予測などを踏まえて計画を作成することが重要です ✓
(2) 利用者等の状況変化への迅速な対応とケアマネジメントの実践							
① 継続したアセスメントを通じた、利用者等の状況変化の早期把握と計画への反映							
16	○ サービス提供を通じた継続的なアセスメントにより、利用者等の状況変化を早期に把握し、計画への適宜反映が行われている			2	1	情報共有が密におこなわせることでより早期の対応ができると思われる。	✓ 「早期の把握」と「計画への適宜反映」の2つの視点から、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] 状況が変化する方が多く、その都度臨機応変に対応を変更している。					
② 居宅への訪問を含む、利用者等の暮らし全体に着目したアセスメントの実施と計画への反映							
17	○ 通い・泊まりの利用に過度に偏らないよう、適時適切に利用者宅を訪問することで、家		2	1	1	訪問による状況把握を継続できるとよい	✓ 「訪問による、家族等を含めた居宅での生活状況の変化の継続的な把握」という視点から、充足度を
		[具体的な状況・取組内容] 訪問のケアの量は適正である。特に認知					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
	族等を含めた居宅での生活 状況の変化を継続的に把握 している	症独居の方が在宅で暮らせるような対応 をしている。					評価します ✓ 訪問によるケアの提供は、家族等 を含めた居宅での生活状況を把握 するためにも重要です ✓
③ 利用者等の状況変化や目標の達成状況等に関する関係多職種との情報共有							
18	○ 利用者等の状況変化や目標 の達成状況等について、主治 医など、事業所内外を含む関 係多職種と情報が共有され ている		2	1	1	主治医との連携を引き続き お願いしたい。	✓ 「利用者等の状況変化や目標の達 成状況等の事業所内外を含む関係 多職種との情報共有」について、 充足度を評価します ✓
(3)介護職・看護職の協働による一体的なサービスの提供							
① 介護職と看護職の相互の専門性を生かした柔軟なサービスの提供							
19	○ 介護職と看護職のそれぞれ の専門性を最大限に活かし ながら、柔軟な役割分担が行 われている		2	2		それぞれの専門性を十分に はっきできているとよい	✓ 「介護職と看護職の専門性を活か した役割分担」について、充足度 を評価します ✓ 介護・看護が一体的に提供される 看護小規模多機能型居宅介護で は、効果的・効率的なサービス提 供のために、各々の専門性を活か した役割分担や、業務の状況等に 応じた柔軟な役割分担を行うこと が重要です

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
							✓
20	○ 利用者等の状況について、介護職と看護職が互いに情報を共有し対応策を検討するなど、両職種間の連携が行われている		3	1		引き続き情報共有を図り連携をとれるとよい	✓ 「介護職と看護職の情報共有および対応策の検討」について、充足度を評価します ✓
		[具体的な状況・取組内容] 申し送りや業務ミーティング、日々のやり取りで連携をしている。					
② 看護職から介護職への情報提供および提案							
21	○ 看護職から介護職に対して、疾病予防・病状の予後予測・心身の機能の維持回復などの観点から、情報提供や提案等を行っている		2	1	1	できるだけわかりやすく伝えて頂けるとよい	✓ 「看護職の専門性を活かした、介護職への情報提供や提案等」について、充足度を評価します ✓ このような情報提供や提案等は、看護職の専門性を活かした役割の1つとして期待されます
		[具体的な状況・取組内容] 医療的観点から介護職への提案等がありケアに活かしている。					
(4)利用者等との情報及び意識の共有							
① 利用者等に対するサービスの趣旨及び特徴等についての情報提供							
22	○ サービスの趣旨および特徴			2	1	紙や可能であれば電子機器	✓ 「利用者等の理解」について、充

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
	等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている	<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 連絡ノートにより利用者、家族さんへの日々のケアや説明を行っている。				等で説明を満たせるとよい	足度を評価します ✓
② 利用者等への「在宅での療養生活」に係る指導・説明							
23	○ 作成した計画の内容や在宅での療養生活の継続に向けて留意すべき点等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている			2	1	利用者への理解の点で工夫があればよい	✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 計画を家族に伝え同意を得ている。					
24	○ 利用者等が行う医療処置や医療機器の取り扱い方法、家族等が行うケアの提供方法等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている		2	1	1	引き続きお願いしたい。	✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します ✓
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 訪問時などに家族へ説明し、理解を得ている。					
③ 重度化した場合や終末期における対応方針の、利用者等との相談と共有							
25	○ 利用者本人（意思の決定・表		1	1	1		✓ 「サービス提供への適切な反映」

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
	示ができない場合は家族等)の希望や意向を把握し、サービスの提供に反映している	[具体的な状況・取組内容] 宿泊や通いについて、本人、家族の希望に沿っている。				細かな聞き取りが希望の吸い上げにつながるとよい	について、充足度を評価します
26	○ 在宅生活の継続の可否を検討すべき状況を予め想定し、その際の対応方針等について、利用者等と相談・共有することができている			1	1	引き続きお願いしたい	✓ 「将来に発生し得る様々なリスクを想定した上での、対応策の検討と共有」について、充足度を評価します
27	○ 終末期ケアにおいて、利用者等に適切な時期を見計らって、予後および死までの経過を丁寧に説明し、説明した内容や利用者等の意向等を記録として残している			1	1	要望があった際にはお願いしたい	✓ 「予後および死までの経過の説明」と「記録の有無」の2つの視点から、充足度を評価します ✓ 「丁寧に説明し」且つ「記録として残している」場合は「よくできている」
2. 多機関・多職種との連携							
(1) 病院・施設等との連携による円滑で切れ目のないケアの提供							
① 病院・施設等との連携や情報共有等による、在宅生活への円滑な移行							

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
28	○ 病院・施設等との連携・情報共有等により、病院・施設等からの、利用者の円滑な在宅生活への移行を支援している		2	1	1	病院との連携が大切になる。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「利用者の円滑な在宅生活への移行」について、充足度を評価します ✓ 例えば、「退院・退所前のカンファレンスへの参加」、「利用者等に係る病院・施設等との継続した情報共有」などの取組が考えられます ✓
② 入院・入所の可能性がある利用者についての、主治医等との対応方針の共有							
29	○ すべての利用者について、緊急時の対応方針等を、主治医等と相談・共有することができる		2	1	1	主治医との良好な関係性をつくれるとよい	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「緊急時の対応方針等の主治医等との相談・共有」を評価します ✓ 利用者の状態変化・家族等介護者の状況の変化など、実際に発生する前の段階から予め対応方針等を主治医等と相談・共有しておくことが重要です ✓
③ 地域の医療機関等との連携による、急変時・休日夜間等に対応可能な体制の構築							
30	○ 地域の医療機関等との連携により、休日夜間等を含めて、すべての利用者について、急変時に即座に対応が可能な体制が構築されている		2	1	1	タイミングを計れるとよい	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「即座な対応が可能な体制の構築」について、充足度を評価します ✓

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
(2) 多職種との連携体制の構築							
① 運営推進会議等における、利用者のために必要となる包括的なサポートについての、多職種による検討							
31	○ 運営推進会議等において、利用者のために必要と考えられる包括的なサポートについて、民生委員・地域包括支援センター・市区町村職員等への情報提供や提案が行われている		1	1	1	活動につながるとよい	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「利用者のために必要となる、介護保険外のサービスやインフォーマルサポート等を含めたケアの提供について、多職種とともに検討・支援を行っていくなどの取組」の充足度を評価します ✓ そのような取組をしたいことがない場合は「全くできていない」 ✓ 民生委員のみでなく、自治会長や町会長などの住民代表も対象です ✓
3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画							
(1) 地域への積極的な情報発信及び提案							
① サービスの概要及び効果等の、地域に向けた積極的な情報の発信							
32	○ 運営推進会議の記録について、誰でも見ることができるような方法での情報発信が、迅速に行われている			2	1	家族介護等活用されるとよい	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「誰でも見ることができる方法での情報発信」と「迅速な情報発信」の2つの視点から、充足度を評価します

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
33	○ サービスの概要や地域において果たす役割等について、正しい理解を広めるため、地域住民向けの積極的な啓発活動が行われている			2	1	引き続きお願いしたい	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「積極的な啓発活動」について、評価する項目です ✓ 例として、「チラシ等の配布」や「地域説明会の実施」などの取組が考えられます。 ✓ 利用者や職員の確保のみを目的とした活動等は除きます ✓
(2) 医療ニーズの高い利用者の在宅での療養生活を支える、地域拠点としての機能の発揮							
① 看護小規模多機能型居宅介護事業所の登録者以外を含む、地域への訪問看護の積極的な提供							
34	○ 看護小規模多機能型居宅介護事業所の登録者以外を対象とした訪問看護を積極的に実施している				2	特になし	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「指定訪問看護事業所の指定を併せて受けている事業所」のみが対象です。該当しない場合は、実施状況欄は無記入で、[具体的な状況・取組内容]欄に「指定なし」と記入してください ✓
② 医療ニーズの高い要介護者の積極的な受け入れ							
35	○ 「たん吸引」を必要とする要介護者を受け入れることが		2	2		要望があれば引き続きお願いしたい	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
	できる体制が整っており、積極的に受け入れている	<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 現在1名受け入れている。					<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します ✓
36	○ 「人工呼吸器」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている			1	2	特になし	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください ✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します ✓
37	○ 「看取り支援」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている		1	1	1	今のうちに準備できるところはしておくとい	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください ✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よく
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> <u>看取りの指針、体制は整えているが、まだ対象者がいない。</u>					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
							できている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します ✓
(3) 地域包括ケアシステムの構築に向けての、まちづくりへの参画							
① 行政の地域包括ケアシステム構築に係る方針や計画の理解							
38	○ 管理者および職員が、行政が介護保険事業計画等で掲げている、地域包括ケアシステムの構築方針や計画の内容等について理解している				3	引き続きお願いしたい	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「内容等の理解」について、その充足度を評価します ✓ 地域包括ケアシステムの構築にあたっては、その中で各々が果たすべき役割を、明確に理解することが必要であるといえます ✓ 地域包括ケアシステムの構築方針や計画などがない場合は、「全くできていない」
② サービス提供における、(特定の建物等に限定しない) 地域への展開							
39	○ サービスの提供エリアについて、特定の集合住宅等に限定せず、地域に対して積極的にサービスを提供している		1	2	1	引き続きお願いしたい	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「特定の集合住宅等に限定しない、地域への積極的な展開」について、充足度を評価します ✓ 看護小規模多機能型居宅介護は、特定の集合住宅等に限定することなく、地域全体の在宅療養を支える核として機能していくことが期待されます ✓ 特定の集合住宅等のみを対象とし

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
							ている場合は「全くできていない」 ✓
③ 安心して暮らせるまちづくりに向けた、関係者等への積極的な課題提起、改善策の検討等							
40	○ 介護・看護の観点から、地域の関係者に対し、必要に応じて課題提起や改善策の提案等が行われている		1	1	2	リスト化したり、わかりやすいようにしてあるとよい	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 今後は、サービスの提供等を通じて得た情報や知見、多様な関係者とのネットワーク等を活用し、必要となる保険外サービスやインフォーマルサービスの開発・活用等、利用者等のみでなく地域における課題や改善策を関係者に対して提案していくなどの役割も期待されます ✓ そのような取組をしたことがない場合は、「全くできていない」 ✓
41	○ 家族等や近隣住民などに対し、その介護力の引き出しや向上のための具体的な取組等が行われている			1	4	顔が見える関係性ができるよとよい	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「家族等や近隣住民に対する、介護力の引き出しや向上のための取組」について、その充足度を評価します ✓ 今後は、利用者への家族等や近隣住民の関わりを促しながら、関係者全員の介護力を最大限に高めることにより、在宅での療養生活を

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき て い る	およそ でき て い る	あ ま り で き て い な い	全 く で き て い な い		
							支えていくための環境を整えていくなどの役割も期待されます

番号	評価項目	事業所自己評価	運営推進会議における意見等	評価の視点・評価にあたっての補足
Ⅲ 結果評価				
① 計画目標の達成				
42	○ サービスの導入により、利用者ごとの計画目標が達成されている	<p>1. ほぼ全ての利用者について、達成されている</p> <p>2. 利用者の2/3くらいについて、達成されている</p> <p>③ 利用者の1/3くらいについて、達成されている</p> <p>4. 利用者の1/3には満たない</p> <p><u>[具体的な状況・取組内容]</u></p> <p>病的疾患によりADLが低下し計画目標の見直しが必要な利用者があり、計画目標の達成は2/3くらいに留まった。</p>	目標の修正、見直しを適宜いれるとよい	✓ 「計画目標の達成」について、評価します
② 在宅での療養生活の継続に対する安心感				
43	○ サービスの導入により、利用者およびその家族等において、医療が必要な状況下においての在宅での療養生活の継続に対し、安心感が得られている	<p>1. ほぼ全ての利用者について、達成されている</p> <p>② 利用者の2/3くらいについて、達成されている</p> <p>3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている</p> <p>4. 利用者の1/3には満たない</p> <p><u>[具体的な状況・取組内容]</u></p> <p>インシュリン注射、吸痰、胃瘻、薬管理、主治医との連携による体調管理、緊急の訪問看護での対応等、在宅生活を継続するために必要なサービスを提供している。</p>	引き続きお願いしたい	✓ 在宅での看取りを除く、全ての利用者およびその家族等に対し、サービスの提供により実現された「医療が必要な状況下においての、在宅での療養生活の継続に対する安心感」について、評価します

番号	評価項目	事業所自己評価	運営推進会議における意見等	評価の視点・評価にあたっての補足
44	○ サービスの導入により、在宅での看取りを希望する利用者およびその家族等において、在宅での看取りに対する安心感が得られている	<p>1. ほぼ全ての利用者について、達成されている</p> <p>2. 利用者の2/3くらいについて、達成されている</p> <p>3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている</p> <p>4. 利用者の1/3には満たない</p> <p>⑤. 看取りの希望者はいない</p> <p>[具体的な状況・取組内容]</p> <p>泊まりサービスの充実に向け、継続的に看護職の増員を図るとともに緩和ケア研修、症例検討会等への受講派遣を積極的に行いたい。</p>	ニーズは出てくると思われるので、準備を進めて頂きたい。	<p>✓ 在宅での看取りを希望する利用者およびその家族等に対し、サービスの提供により実現された「在宅での看取りに対する安心感」について、評価します</p> <p>✓ 在宅での看取りは、事業所内（通い・泊まり）での看取りを含みます</p> <p>✓ 在宅での看取りの希望者がない場合は、「5. 看取りの希望者はいない」</p>